

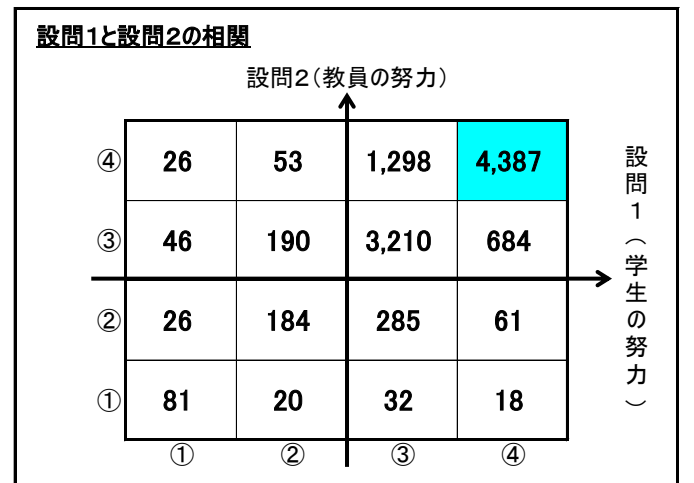
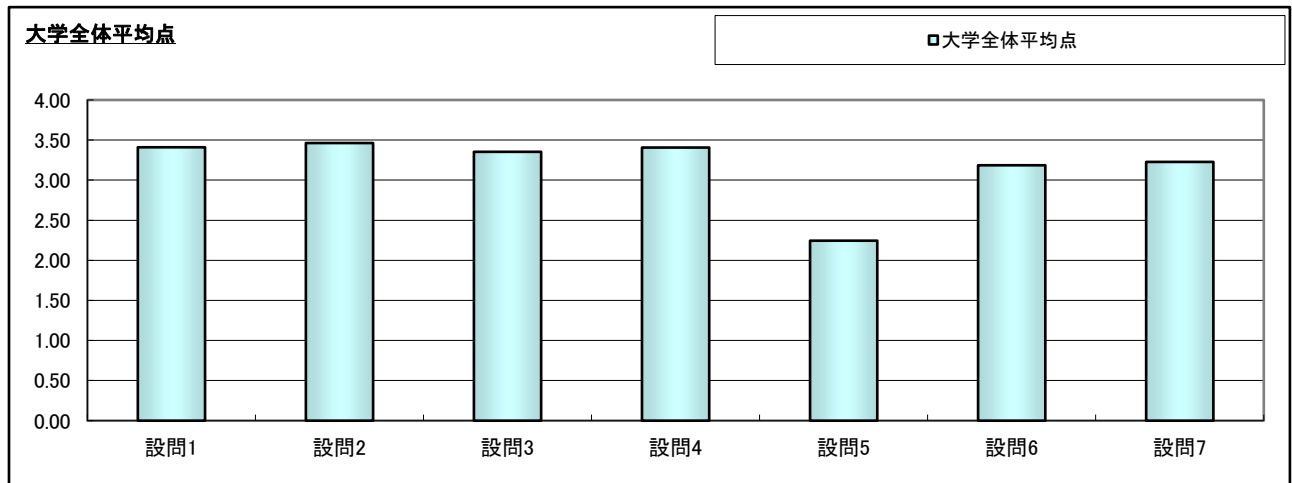
2018年度 前期 授業についての学生アンケート集計結果(全体)

松本大学

集計	大学
----	----

履修人数	12,454
回答者数	10,606

設問	設問文	平均点	回答数(人)／回答率(%)				無効回答	有効回答
			④	③	②	①		
1	あなたはこの授業(必修、選択は問わない)内容を理解することに積極的でしたか。 ④積極的に理解しようとした。③理解しようとした。②あまり積極的ではなかった。①理解よりも単位取得が主目的だった。	3.41	5,151 48.6	4,825 45.5	448 4.2	179 1.7	3	10,603
2	学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか。 ④強く感じた。③やや感じた。②あまり感じなかった。①まったく感じなかった。	3.46	5,766 54.4	4,131 39.0	556 5.2	151 1.4	2	10,604
3	この授業は内容がよく理解できるように工夫・配慮されたものでしたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.35	5,113 48.2	4,341 41.0	921 8.7	223 2.1	8	10,598
4	教員は良い学習環境(私語に対する注意や安全面への配慮など)を保っていましたか。 ④良い学習環境だった。③ある程度良い学習環境だった。②あまり良い学習環境ではなかった。①良い学習環境ではなかった。	3.41	5,327 50.3	4,433 41.9	638 6.0	192 1.8	16	10,590
5	この授業のために、授業時間以外に毎週平均的にどれくらいの学習時間(予習・復習・レポート・実習・試験勉強など)をもちましたか。 ④1時間以上③30分以上～1時間未満②15分～30分未満①15分未満	2.24	1,790 16.9	2,545 24.0	2,727 25.7	3,531 33.3	13	10,593
6	授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていましたか。 ④よく反映されていた。③ある程度反映されていた。②やや反映されていた。①反映されていなかった。	3.19	3,977 37.7	4,944 46.9	1,215 11.5	403 3.8	67	10,539
7	あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標を達成できましたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.23	3,768 35.6	5,684 53.7	916 8.6	222 2.1	16	10,590



区分	大学
----	----

改善計画等

今回のアンケートの回収率（回答者数／履修者数）は85.2%と高い数値を収めることが出来た。アンケート時にたまたま休んだ（1日休んだだけで、いくつかのアンケートを逃してしまうこともある）場合もあるだろうし、受講を途中で放棄してしまったり、休学や退学者の存在も考えれば尚更である。

さて、いつもと同じように縦軸を「教員の情熱」、横軸を「学生の意欲」にとって分析を行えば、我々が最も好ましいと考える第一象限（教員の情熱と学生の意欲がクロスするケース）への回答者数は9,579人で90.36%に達している。その象限の中でも、最良と思われる右上の割合は45.76%に達しており、本学の講義が学生から高い評価を得ていると考えられる。

我々が最悪と考えている第4象限は396人で3.74%に止まっている。目標は2%台前半に抑えたい。これは国立大学の退学率に相当する値である。

学生自身がその講義に対してあまり努力をしなかった、別の言葉で言えば努力をしようという意思が働かなかった、その意味を見いだせなかった講義であったと判断した割合は第2象限315人、2.97%、第3象限311人、2.93%で合わせて626人5.90%であった。学修に対する姿勢だけで決めることはできないが、こうした学生が退学予備群だとすれば、私立大学の退学率の平均値約8%と比較しても低い数値になっており、一応合格ラインに達していると言えよう。

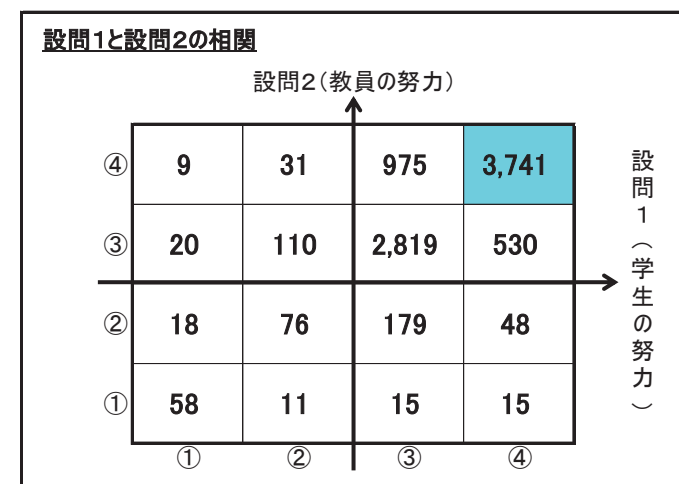
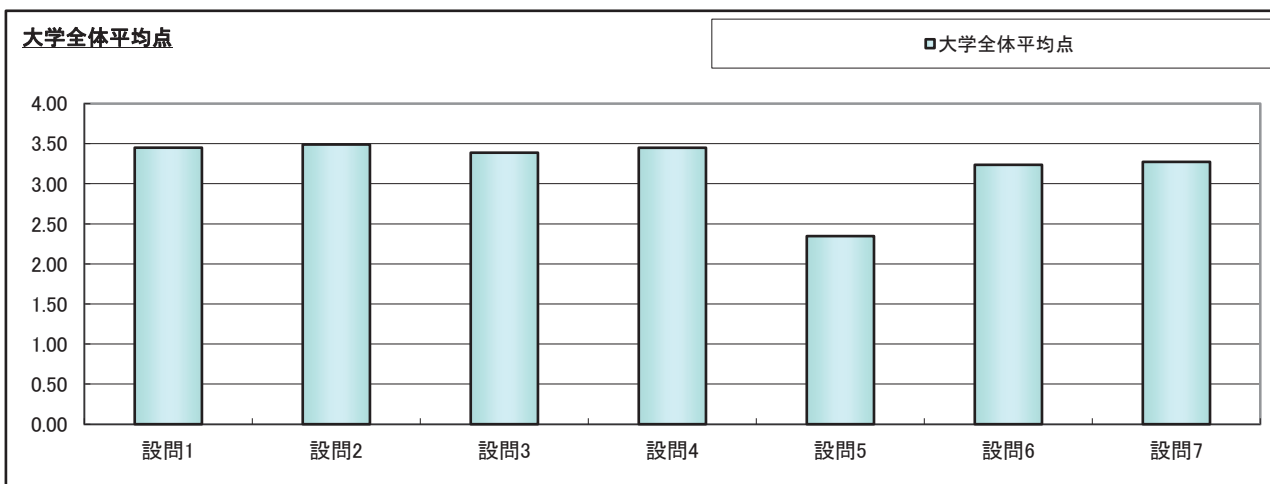
また、教員の教育への情熱を感じられないと講義への失望感を表明しているともとれる回答者（第3と第4象限）が退学予備群と考えれば、707名で6.67%である。これだけなら、やはり8%以下であり多くの講義が学生を学修に向かわせる内容になっていると考えても良いのではないだろうか。

こうした視点で見えてきているが、年々良い方向に改善できてきている。このアンケートが評価を4段階に分けていることで、善し悪しの判断を迫るスタイルとなっているのであるが、良好な結果が本学学生の「ひとの良さ」に起因するものでないことであってほしい。

集計	大学
----	----

履修人数	10,308
回答者数	8,665

設問	設問文	平均点	回答数(人) / 回答率(%)				無効回答	有効回答
			④	③	②	①		
1	あなたはこの授業(必修、選択は問わない)内容を理解することに積極的でしたか。 ④積極的に理解しようとした。③理解しようとした。②あまり積極的ではなかった。①理解よりも単位取得が主目的だった。	3.45	4,334 50.1	3,990 46.1	228 2.6	105 1.2	8	8,657
2	学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか。 ④強く感じた。③やや感じた。②あまり感じなかった。①まったく感じなかった。	3.49	4,760 55.0	3,482 40.2	321 3.7	99 1.1	3	8,662
3	この授業は内容がよく理解できるように工夫・配慮されたものでしたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.39	4,198 48.5	3,773 43.6	535 6.2	153 1.8	6	8,659
4	教員は良い学習環境(私語に対する注意や安全面への配慮など)を保っていましたか。 ④良い学習環境だった。③ある程度良い学習環境だった。②あまり良い学習環境ではなかった。①良い学習環境ではなかった。	3.45	4,467 51.6	3,719 43.0	351 4.1	115 1.3	13	8,652
5	この授業のために、授業時間以外に毎週平均的にどれくらいの学習時間(予習・復習・レポート・実習・試験勉強など)をもちましたか。 ④2時間以上、③1時間以上～2時間未満、②30分以上～1時間未満、①30分未満	2.35	1,597 18.5	2,247 26.0	2,365 27.3	2,441 28.2	15	8,650
6	授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていましたか。 ④よく反映されていた。③ある程度反映されていた。②やや反映されていた。①反映されていなかった。	3.24	3,359 38.9	4,228 48.9	798 9.2	259 3.0	21	8,644
7	あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標を達成できましたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.27	3,230 37.4	4,692 54.3	576 6.7	147 1.7	20	8,645



区分	大学
----	----

改善計画等

教員の教育への意欲・情熱を縦軸に、学生の学ぶ意欲を横軸とした二次元平面上に、回答数をプロットしている。第一象限（教員の情熱も学生の意欲も高い）の割合は93.18%にもなっている。第二象限（教員の情熱はあるが学生の意欲は低い）は1.96%、第三象限（教員の情熱も学生の意欲も低い）は1.88%、第四象限（学生の意欲は高いが教員の情熱は低い）は2.97%だった。第三象限の回答が多い授業は、誤解を恐れず言えば、開講する意味がないということにもなる。さらに問題は第四象限である。学生の学ぶ意欲に教員が応え切れていないということを意味しており、最も改善を要するケースである。第一象限以外いずれも大変低い割合であるが、その中では第四象限が最も高いというのは、学生の暗黙の改善を要求する叫びなのかもしれない。しかし、大局的に見れば第一象限が圧倒的多数を占めており、本学ではかなり良い授業が展開できていると言える。こうしたアンケートで毎回低い平均点を示すのが、授業外学修時間の項目である。4年間124単位を8期で割れば各期平均15.5単位。1科目平均1.8単位とすれば各期平均8.6科目の履修となる。授業外学修時間が30分というのは1科目当たり約3.5分、1時間で7.0分、2時間で14分ということである。1科目当たり14分以下という回答が81.5%を占めている。レポートを課す講義が2つ有れば、1科目当たり30分以上は必要だろうから、他の授業は予習も復習もほとんどしていないことになる。しかしこの結論は間違っている可能性もある。例えばマーケティングの講義で、どうすればこの商品は売れるようになるかと考えながらウィンドウ・ショッピングをしているとすれば、広い目で見ればかなり重要な学修をしている可能性もある。しかし学生はこれを学びと認識しているかという、その可能性は低いと思う。学生はこれをやりなさい、提出しなさいと言われたことをやっている場合は、授業時間以外に学修したと認めている可能性は高い。もう少し別の例を挙げよう。体育の授業を履修していて、クラブ活動も活発にやっている場合である。種目は違っても、例えば体力が付いているという意味では十分に授業の目標を達成している可能性がある。結局、自発的な学びを学修時間と認識しているかどうかを正確に識別しないで、表面上の数値だけを追っかけても意味が無いとも言える。これは本学も取り組むべき今後の大きな課題である。